令和６年度

防除情報(病害虫情報 号外 第２号)

令和６年４月８日
神奈川県農業技術センター

令和６年度イネ縞葉枯病の発生予測と防除について

県内12地点の水田でヒメトビウンカの越冬世代虫密度を調査した結果、平均密度は27.1頭/9㎡(平年44.1頭/9m^2)であり、平年比「やや低」でした(図1)。

また、県内8地点の水田でヒメトビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を調査した結果、平均保毒虫率は4.1%(平年3.9%)であり、平年並でした(図1)。

越冬世代虫密度は平年に比べやや低く、RSV保毒虫率は平年並ですが、4月以降の気温が平年に比べ高く推移すると予想されていることから、本年のイネ縞葉枯病発生量を「平年並」と予想しています。

[防除]

水稲生育初期にRSVに感染すると被害が大きくなります。このため、必ずウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤を施用してください。

また、田植前および作期を通して水田周辺の除草を徹底し、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期には農業技術センターの病害虫情報等を参考に、適期に本田防除を行ってください。

[防除薬剤例]

【育苗箱施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アドマイヤーＣＲ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	１回	50g/箱
グランドオンコル粒剤	移植３日前～移植当日	１回	50g/箱
エバーゴルフォルテ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	１回	50g/箱

【本田施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	収穫７日前まで	３回	3kg/10a
トレボン粒剤	収穫21日前まで	３回	2～3kg/10a

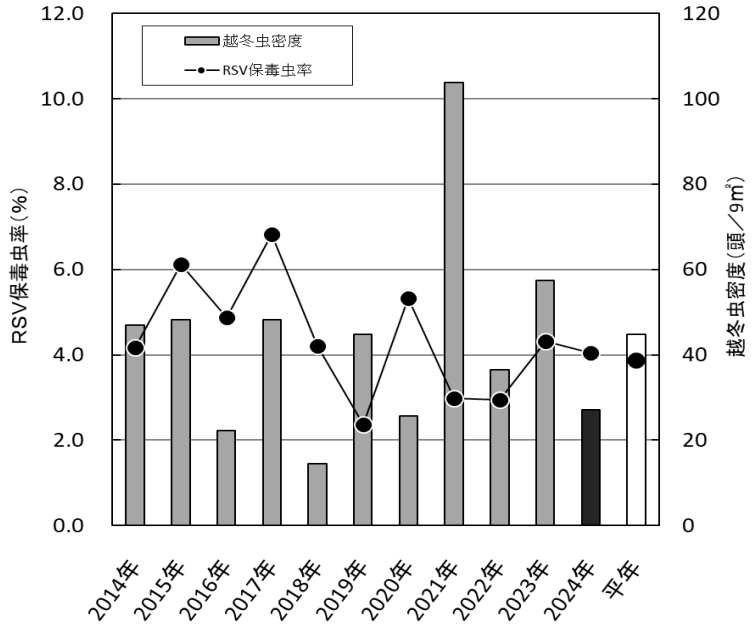

図1　ヒメトビウンカのRSV保毒虫率及び越冬虫密度の経年変化

病害虫防除部
ＴＥＬ0463-58-0333
ホームページ
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/

○農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。